

# イギリス新聞草創期における coranto について

芝 田 正 夫

## 1. はじめに

「英国は近代議会政治の母国であるといわれているが、それと同じような意味で英国は近代新聞の母国であるといっても敢えて過言ではあるまい」。上野精一氏のことばである。<sup>1)</sup>氏はさらに続けて次のように述べている。「近代的新聞の発芽という点から見れば、独乙は英仏に先立っているというべきである」が、「英国は近代的新聞の母国であるというのは自ら別の意味からである。それは近代的新聞の最も重要な特色であるところの報道評論の公共性即ち公共精神の発露協調が英国の新聞発展の中心であり基調をなしている点である」。こうした問題意識から、氏はイギリスの近代新聞史について、その成立から19世紀初頭までを詳述している。わが国では上野氏のように、イギリスを近代新聞の母国とみて、とくに言論の自由確立の視点からイギリス新聞史についてこれまでに多くの研究がおこなわれてきた。しかし、通史研究が中心であったため新聞史上の細かな事実については、こうした諸研究にも関わらず、すべての面が明確にされているとはいえないのが現状である。本稿では、こうした先行研究を吟味しつつ、イギリス新聞史を再検討する作業の第一歩として、まず17世紀初頭のイギリスにおける近代新聞の草創期について、その過程と背景についてみていきたい。

## 2. これまでの研究について

戦前より多くの研究者が、イギリスにおける近

代新聞の草創期についてその著作で触れているが、ここでは先にあげた上野精一をはじめ、小野秀雄、寿岳文章、伊藤慎一の諸氏の研究をみていきたい。(引用については、一部現代表記に改めた。)

(上野精一「英国新聞史論」)

上野氏は昭和5年に書かれた同論文で、つぎのように述べている。「英国新聞の歴史は、1622年の週刊ウィクリー・ニュースから始まるというよい。これより以前英国に於ても他の国の新聞史が示すと同じように新聞的先駆があった。ニュース・レターより進んで印刷されたるニュース・レター又はニュース・シートが工風され、読者の範囲が特約の受信者から不特定の範囲の読者に拡がるようになって近代的新聞の階段に一步を進めたといえるが、それが今いうところのウィクリー・ニュースに至って更に進んで定期的発行となり、しかも週刊の意味を以て現れて来た。印刷されたるニュース・レターについては確かな年代がわからないが、このウィクリー・ニュースに至り略近代的新聞の要素をそなえ、しかも発刊の年代が確かであるから、これを以て英国の新聞歴史の始まるころとするのは単に便宜からばかりではないのである。この最初の新聞の名称は A Currant of generall newes で1622年5月14日発行であるが、今現に存在しているのは第二号として出た Weekely Newes from Italy, Germany, & c. 5月23日発行である。この発行者はトマス・アーチャーとニコラス・ボンである」。さらに、このウィクリー・ニュースは「必ずしも今日いうような週刊」ではなく、「10日目位に発行したいもくろみを発表した」とも説明されている。その内容について

1) 上野精一「英国新聞史論」(『上野精一文集』所収、朝日新聞社、昭和47年)

ては、「当時は検閲制度嚴重であったため内地記事をさけて外国記事を掲載したが、それとても重大な事件が簡単に記され、些細な事が大げさに書かれたことはやむを得ない」としている。

(寿岳文章「新聞雑誌及出版事業」)

氏は「新聞雑誌及出版事業」(1941年)において、次のように説明している。<sup>2)</sup>「英語で書かれたこのような news-book 乃至 'coranto' の現存する最古のものは、1912年の11月大英博物館で発見されたローマ字体活字の一枚刷である。それは標題を持たず、"The new tydings out of Italie are not yet com." と始り、後附にはアムステルダム (Amsterdam) のヴェセラー (George Veseler) が、1620年12月2日に印刷し、カルヴァストリート (Calverstreete) のキーリアス (Petrus Kee-rius) が発行者である由が記されている。この一葉が、たとえ一部の論者が説く如くロンドンで印刷されたとしても、それに続く1621年代の小新聞を仔細に点検すれば、英国の新聞の故郷はオランダであることが断定し得られる」。このあと、ヴェセラーという人物について、アムステルダム在住の著名な news-printer で、ヨーロッパの各国から得た「新聞」をオランダ語に翻訳して発行していたとしている。

イギリス本土で出版された新聞については次の記述がある。「1621年の9月24日に、N.B. と署名する出版者が現存物中の最初の news-sheet を英国で発行した。これらの小新聞は概ね週刊であったが、その事実は奥附の印刷日附によって知られるに留り、新聞自体の不可欠な要素として日附や号数をまだ明示してはいなかった。日附の明示は1622年4月17日発行の "Good news for the King of Bohemia" から、そして日附・号数の明示は同年10月15日発行の "A relation of the late occurrents which have happened in Christendome" から始る。以上の引例からも推察せられる通り、題名は news 本位に流動し、まだ固定した標題が用いられていなかったの、同一の news を重ねて取り扱う場合には "The Continuation

of ovr weekly newes from. . . ." という形式が屢々用いられた。」

そして、1620年12月2日印刷のタイトル不詳の coranto と、21年発行の "Corante or newes from Italy, Germanie, Hungarie, Spaine and France", それに1625年発行の "The Continuation of ovr weekly newes from the 30 December, to the 5 of January" の3紙のコピーを掲載している。Continuation とはこの場合、ニュースの「続き」といった意味合いであろう。さらに、N.B. とは Nathaniel Butter (d. 1664) であり、Nicholas Bourne とともに1620年代から40年代にかけて「この種の新聞の発行者として最も多く活躍した」と説明している。

(小野秀雄「内外新聞史」)

我国における新聞史研究の第一人者であった小野秀雄氏は著作中(「内外新聞史」, 1961年)に簡単な記述であるが、次のように書かれている。<sup>3)</sup>「この二つの新聞(1618年にオランダで発行された週刊新聞)の英訳が、1620年から1621年にかけてイギリスで販売された。(中略)(こうした)英訳の「コーラント」が刺激となって、ロンドンにも週刊紙があらわれた。1622年にでた「ウィクリー・ニュース」(Weekly Newes) がそれであるが、内容はオランダ新聞の翻訳であった。」

(伊藤慎一「英国の新聞」)

伊藤氏は「英国の新聞」においてつぎのよう叙述している。<sup>4)</sup>「17世紀にはいると、外国と競争し、貿易によって成長してゆこうとするイギリス国民にとって海外ニュースは重要なものになり、まずオランダで印刷されたコラントとよばれる英語の一枚刷りニュースが輸入され、やがて1621年にはロンドンでオランダ版の複製が印刷された。1622年には書籍商組合登録簿に「ウィクリー・ニュース」という小冊子が記録され、10月からは巻号をつけるようになり、イタリア、ドイツ、ハンガリー、ボヘミアなどのニュースを掲載した。これはそのころから急速に増加していたニュース・

2) 寿岳文章『新聞雑誌及出版事業』研究社、昭和16年

3) 小野秀雄『内外新聞史』日本新聞協会、昭和36年

4) 伊藤慎一『英国の新聞』日本新聞協会、昭和26年

ブックの一種であり、禁令によって国内ニュースは印刷できなかった。」<sup>5)</sup>

### 3. 先行研究のまとめ

以上、これまでの研究をみてきたのだが、次のようにまとめられるだろう。

1. 英語で書かれた最初の新聞は、オランダで印刷されイギリスに輸入された。時期は1620年で、それらは総称して「コラント (coranto)」とよばれた。<sup>6)</sup>

2. 現存している最古のイギリスで印刷発行された新聞は1621年9月24日発行の“Coranto or Newes from Italy, Germany, Hungarie, Spaine and France”であり、発行者はN. B. こと Nicolas Bourne (バーンと発音したようである) で

あった。大陸諸国からのニュースを内容とし、当初の形式は一枚刷りの news-sheet だった (春山氏によると「フォーリオ版 (全紙二つ折り、ふつう高さ30センチ以上)」)。

3. こうした草創期の新聞は「定期性」や「同一の標題」はほとんど意識されず、同一の発行者 (もしくは発行者グループ) が毎号ちがったタイトルで刊行していた。一般にイギリス最初の定期新聞といわれるウィクリー・ニュース (1622年、一枚刷りではなく「ニュースブック」と当時よばれた小冊子型) も号によって標題は一定していなかった。

一方こうした共通の理解以外に各研究書の記述には相違点も多く、以下イギリスの研究書に則して、17世紀初頭の新新聞草創期について、その実態をいっそう明確にしていきたい。

5) こうした著作の他、この時期についてふれた研究は多い。

たとえば、磯部佑一郎氏の『イギリス新聞史』(ジャパントイムズ, 昭和59年)もこの時期を扱っている。ベスラーがアムステルダムで発行し、イギリスで販売した英語版のコラントについて触れたあと、1621年の Thomas Archer によるイギリス最初のコラント、同年9月24日の The Corante or (Weekly) Newes from Italy, Germany, Hungarie, Spaine and France という「長い名前のビラ的情報紙」が Nicolas Bourne によって発行されたとし、さらに「当時イギリスでは国内問題についての印刷、出版には当局の眼が光っていたため、外国種をドイツのフランクフルトやオランダのアムステルダムで出版されたものから、そのままコピーした方が無難で、前記のニコラス・ボールンもニュースの出所には少しもこだわらず、また他の報道紙作成の手法も、一般的に“オリジナリティ”ということには、何ら重大性をおいていなかった」としている。そうして、1622年5月にアーチャーとボールン (バーン) は共同してウィクリー・ニュースを週刊で刊行し、同年8月にはナサニエル・バターがニュース (Newes) という週刊報道紙を発刊し、これらは「従来の片面刷 (the single-sheet format) にとって代わった、ページ数の多いパンフレット版 (the pamphlet format)」であったと説明されている。

また、『ヨーロッパの新聞 (上)』(江尻・渡辺・阪田著, 日本新聞協会, 昭和58年)にも次の記述がある。「17世紀にはいると、国際的な貿易がイギリスという国を支えるという状況がますます強まった。その貿易の担い手である商人たちにとっては、海外のニュースは決定的に重要だ。ここにアムステルダムで印刷と書籍出版を行っていた、ジョージ・ベスラーなる人物がいた。ベスラーは、おりから勃発した30年戦争の動向をみているうち、このような大事件のニュースは、イギリスでも売れるに違いないと思うようになった。そこで1620年末、同戦争を報じるニュース・シートを英・蘭両国語で印刷、英語版をイギリスに輸出して、商人たちに売ったのである。このニュース・シートは「イングリッシュ・コラント (English Coranto)」と題するもので、イギリスで最初に売られた印刷報道紙といわれる。このベスラーの成功に刺激を受け、イギリスでもニュース・シートを刊行する者が現れるようになった。トマス・アーチャーやニコラス・ボールンがそれで、二人はそれぞれ1621年、ドイツやオランダで印刷された「コラント」を翻訳したニュース・シートを発刊。翌年の1622年5月には、二人は協力して「ウィクリー・ニュース (Weekly News)」という名の小冊子を刊行した。また同年8月、ナサニエル・バターが「ニュース (News)」と題する週刊の報道冊子を、イギリス初めての定期的に連続発行し始めた。ただし、これらの報道冊子の内容は、いずれも当局の取り締まりをさけるためもあり、主として海外ニュースを扱っていた。」この他、イギリス近代新聞の成立期を扱った著作としてつぎのものがある。

稲葉三千男・新井直之編『新聞学』日本評論社, 昭和52年 (第1章2節「新聞の略史—世界」, 執筆は広瀬英彦) 春山行夫『西洋広告文化史 (上)』講談社, 昭和56年 (1622年5月23日発行の Weekly Newes のコピーが掲載されている。)

安藤・小池他編『イギリスの生活と文化事典』研究社, 昭和57年 (第4章5節「新聞・雑誌と放送」, 執筆は出口保夫)

出口保夫『イギリス文芸出版史』研究社, 昭和61年

6) コラント (coranto) は、O. E. D によると、A letter or paper containing public news; a gazette, news-letter, or newspaper とされ、1621年の用例がでている。

#### 4. イギリスにおける諸研究のレビュー

一方、イギリスにおける研究においては、近代新聞の成立期についてもいくつかの説があり、たとえば *World Press Encyclopedia* によると、「イギリス新聞の伝統は17世紀までさかのぼる。最初の本格的な新聞は“Oxford Gazette”であろう。同紙は1665年に創刊され週2回発行であった。23号以降、“London Gazette”と改称された」としている。<sup>7)</sup> また、Raymond Williams もその著書 (*The Long Revolution*) において、「重要な技術的前進、つまり、ブックとかパンフレットとかに代わるニュース・ペーパーと言えものの発展は、実は当局の指導の下に起こった。1665年のことであり、公認の「オクスフォード・ガゼット」が、新しい一枚紙の形式で、官許をえて発行された」とし、17世紀初頭の「コラント」などの多くの試みは「なお本質的には、ブックもしくはパンフレットであった」として、新聞と区別している。<sup>8)</sup>

このように、評者によっては、イギリスの近代新聞の成立の起点をどこに置くかで、意見の違いはあるが、ここでは多くの研究者がその起点として取り上げている1620年代の動きを中心にみていきたい。まず、イギリスにおける研究史をふりかえるためにも、イギリス新聞史研究の「古典」からこの時期の記述について検討していく。

最初は A. Andrews の *The History of British Journalism* (1859) である<sup>9)</sup>。同書では、1620年に先立つ時期すなわち16世紀の後期から、多くの新聞に類似したものが出版されており、British Museum 所蔵のパンフレットとして次のものを挙げている(括弧内は発行年)。なお現物が残っていないが、エリザベス時代のパンフレットとして1579年から1602年までに発行されたものも紹介している。

Newes from Spaine (1611)

Newes out of Germany (1612)

Good newes from Florence (1614)

Newes from Mamora (1614)

Newes from Gulick and Cleve (1615)

Newes from Italy (1618)

Newes out of Holland (1619) 他

こうしたパンフレットの多くは、オランダで出版されたものの翻訳であり、記事の内容は外国の出来事であった。国内のニュースは、政府との関係からほとんど取り上げられなかった。

数年後、ニュース・ブックの印刷者のなかには、定期的刊行を試みた者が出現した。Nicholas Bourne, Thomas Archer, Nathaniel Newberry, William Sheffard, Nathaniel Butter らであった。Andrews は彼らを「定期刊行新聞 (regular newspaper press) の父」と呼んでいる。しかし、定期刊行をなしとげた彼らも、同一のタイトルで発行する考えはなく、号数を付けることもしていない。British Museum に現存している最初の定期新聞は、1622年5月23日付けの“The Weekly Newes from Italy, German, & c. London : printed by J. D., for Nicholas Bourne and Thomas Archer”である。この後、ほぼ週刊の形態で出版され、名称もほとんどが Weekly Newes を冠していた。同年の9月25日付け号は、“Newes from most parts of Christendom, & c. London : printed for Nathaniel Butter and William Sheffard”という題号で、ここではじめて Butter の名前が登場する。号数が明示されたのはもっと遅く、1623年5月12日付けの“The Newes of this present Week”に31号との記載がある。ちょうど1年前の号を1号として、その後定期刊行されていたと仮定すると52号になるはずであり、このことについて Andrews は次のように推測している。

「刊行されなかった週は伝達 (communicate) すべきニュースがなかったか、あるいは今日保存されている新聞がひとつのシリーズではなかった(別々に発刊されていた) のである」

Andrews は続けてつぎの様に説明している。

7) G. T. Kurian (ed.), *World Press Encyclopedia*, New York, Fact on File, Inc., 1982, p. 923

8) Raymond Williams, *The Long Revolution*, London, Chatto & Windus, 1961 (翻訳は若松・妹尾・長谷川訳『長い革命』ミネルヴェ書房, 昭和58年, pp. 158-159 による。)

9) Alexander Andrews, *The History of British Journalism* (2 vols.), London, Richard Bentley, 1859, pp. 26-29

「Butter の登場のあと週刊の定期刊行はいっそう守られるようになったが、タイトルは依然まちまちであった。例えば、“The Last Newes”とか、“A Relation”などであった。」

つぎに H. R. Fox Bourne の *English Newspapers* (1887) をみてみたい<sup>10)</sup>。同書は1621年を初期新聞のスタートの時期とし、記述を始めている。「ニュース・パンフレット」や「ニュース・バラッド」と呼ばれた国内外のニュースを掲載した小冊子が17世紀にあらわれ、そうしたなか、Nathaniel Butter の “News from Spain” (1611年) や1621年10月9日発行の “The Courant, or Weekly News from Foreign Parts” がある。この時期、こうした新聞発行に従事した中心人物は Butter, Bourne, Archer らであるが、彼らの新聞の多くは “Weekly News” (彼は Newes と書かず News と表記している) と呼ばれていたが、ほとんどすべての号は副題 (sub-heading) を持ち、まったく表題の異なる号もあった。また週刊の名前をもちながら、厳密な意味での定期刊行ではなかった。1622年8月23日の “Weekly News” 紙上で、Butter は彼の発行していた News を、今後同一のタイトルのもとで週刊で発行するといいつつ、すぐに自らきめたルールを破り、9月2日には、“Two Great Battles very lately Fought” を、9日には “Count Mansfield’s Proceedings since the Last Battle” を “Weekly News” のタイトルを使用せず刊行している。号数は1622年の10月15日の “Weekly News” の新シリーズから1号と明記しはじめ、その後は毎号号数は打たれたが、1623年の10月から新シリーズということで再び1号を刊行している。号数はこのように次第に整理されてきたが、タイトルは一定せず、あるときは “The News of this Present Week” であり、またある週は、“The Last News” や “More News” だった。そして、Fox Bourne は、当時のこうした新聞についてつぎのようなまとめを行っている。「この時期のジャーナリズムは未発達の状態であり、初期の新聞は大変不規則に発行されていた。今日の新聞のような情報はほとんどなく、国内のニュースは検閲官 (licencer) を恐れて掲載

されず、外国の重大なニュースも表面的にしかり扱われなかった。ジェームズ1世の時代の末期にあらわれた初期の新聞は欠点が多く、取るに足らないものであったとしても、後世に成長した新聞業のはじまりとしては十分なものであった。」

つぎに Harold Herd の *The March of Journalism* (1952) を検討したい<sup>11)</sup>。同書は、副題 (*The Story of the British Press from 1622 to the Present Day*) にあるように、イギリス新聞の始まりを1622年の “Weekly Newes” におき、同年5月23日の同紙のコピーを掲載している。しかし、それ以前にも “News” といったタイトルをもった新聞に類似した物は多くあったが、それらは特定の出来事を記録した単発物 (single production) であり、継続性が本質的な要件である新聞の先駆者とはみなせないが、こうしたパンフレットの特徴は、大きさや外見は本に似ていることで、ページ数は8ページ、16ページ、24ページであった。表紙のレイアウトは当時の本のスタイルと同じで、唯一の相違点は発行の正確な日付が書かれていたのと、のちには号数が記されはじめた点であった。やがて継続性をもった newsbook が現れたが、定期性という新聞のもうひとつの要件は具備していなかった。「そうしたニューズブックは1週間かまたは数週間ごとの間隔で発行されたが、次号を刊行する目的は (定期性を維持するためでなく) ニュースに対する公衆の要求があったためにすぎなかった」というのである。

Herd もこの時代のニューズブック発行者の代表として Nathaniel Butter をあげている。Butter は1605年に Yorkshire でおこった殺人事件の記事を発行し、1611年には “Newes from Spain” を刊行し、のちに Bourne, Archer らと競争し、やがて Bourne とは共同して多くの newsbook を刊行した。そのなかには、“Newes from Most Parts of Christendam” という「大言壮語の (grandiloquently)」タイトルをつけたものもあった。

Archer は1625年に近代的な意味でのタイトルをもった最初の newsbook である “Mercurius Britannicus” (ラテン語で「イギリスのマーキュ

10) H. R. Fox Bourne, *English Newspapers* (2 vols.), London, Chatto & Windus, 1887. pp. 1-6

11) Harold Herd, *The March of Journalism*, London, George Allen & Unwin Ltd, 1952, pp. 12-13

リー」の意。マーキュリーはギリシア神話で神々の使者)を刊行した。これは1594年から1635年にかけてケルンで非定期に刊行されていた“Mercurius Gallobelgicus”のタイトルをまねたもので、当時同誌はイギリスでもよく知られていた。しかし、これ以外のnewesbookは号ごとに表題を変えていた。当時のnewesbookは一般にcorantoと呼ばれていたとしている。

### 5. 1620年代のcorantoについて

以上のイギリスの諸研究に明らかなように、1620年代には多くのcorantoと呼ばれるnewsbookが登場した。その実態を知るためには、はたしてどのようなcorantoが出版されていたのかを調べることが必要となろう。完全なリストではないが、Tercentenary Handlist of English and Welsh Newspapers, Magazines and Reviews (The Times, 1920)が参考になる<sup>12)</sup>。同書は、British Museum (現在はBritish Library)所蔵の著名な新聞コレクションであるBurney Collectionなどをもとに編集された300年間の定期刊行物の巨大なリストである。その解説とともに順にみていきたい。

まず1641年までの初期の定期刊行物は、外国のニュースのみを扱い、corantoとよばれていた。1620年と21年に発行されたcorantoはフォリオ版のハーフ・シートで、両面印刷であった。リストには、24種のcorantoがあがっている。p. 117のリスト1はそのリストである。記載事項は奥付けに書かれている文章である。

アムステルダムでGeorge Veselerが発行したものが11種あり、その他オランダで印刷され、イギリスに持ち込まれたものが半数以上になる。ロンドンの印刷業者によるオランダのコピー版はものは1621年に登場しているが(No. 19, 20)、印刷業者の名前は伏せ、N. B. というイニシャルのみである。同書では、N. B. をNicholas Bourneであるととしている。

次に1622年から1641年までのcorantoのリストが掲載されているが、ここでは「この期間に刊

行されたcorantoは、週刊のパンフレットが主流であり、1枚刷りの形式は1665年のOxford Gazetteまでなく、普通はquarto版で3シートをからなり、24ページだった。一部4ペンス銀貨(groat)1枚で販売されていた」と解説されている。

1622年と23年に刊行されたcorantoのリストはp. 118のリスト2である(&c.とは長いタイトルの後半を省略しているとの意味である)。1622年については21種が掲載されているが、そのうちBourne, Archer, Butterが関係しているものが19種にのぼる。1622年10月15日発行のものなら号数を付け始めたことがわかるが、タイトルは各号ごとで異なっている。

1623年については、タイトルと発行者を変えながら、31号から50号まで刊行され、前述のように10月11日に再び1号が登場し、このシリーズは1624年の5月17日の30号まで続いた。ただし、その期間にもタイトルと発行者は変わっている。

1625年には前述のMercurius BritanicusがArcherによって刊行され、少なくとも23号まで刊行された。

1624年から32年の期間はリストは省略し、多くのcorantoが刊行され、Butter, Bourneはそのほとんどを共同で刊行していたが、全体の数は減少したとしている。

1622年および1623年のリストをみると、週刊といいながら2日後に発行されているものもあり、また号によって(同一の発行者でも)タイトルがまちまちなのがわかる。

発行日を整理すると次のようになる。

1622.	10. 15	1号
		30
		4号
	11. 5	5号
		7
		6号
		不詳
		7号
		21
		8号
		28
		9号
1623.	5. 12	31号
		17
		32号
		26
		33号

12) Tercentenary Handlist of English & Welsh Newspapers, Magazines & Reviews, London, The Times, 1920, pp. 17-20

30	34号
6.16	36号
7.4	38号
10	39号
18	40号
22	41号
29	42号
8.21	44号
8.27	45号
29	46号
9.5	46号(?)
12	47号
17	48号
24	49号
10.2	50号

整理すると、発行間隔は様々だが、1ヵ月4回のペースはほぼ守られており、週刊というより月4回刊といった方が妥当のようだ。とすると、ニュースがあれば刊行するというより、一応は定期刊行をめざしていたと考えていいだろう。

## 6. まとめ

以上、1620年代の coranto を中心にイギリス新聞の草創期について述べてきたが、最近のイギリスの研究もまじえて一応のまとめをしておきたい。

Anthony Smith は著書のなかで、新聞が「定期性 (regularity)」「頻繁な発行 (frequency)」「内容の多様性」を獲得していくまでを4段階に分けているが、イギリス新聞の草創期を理解するためにも役立つ仮説である。

まず第一段階は、「ひとつの話を掲載した刊行物」で、イギリスでは1619年に Nathaniel Newberry が刊行した “Newes out of Holland” は、Barnevert というオランダの囚人の反乱のニュースのみを掲載している。表紙には事件の概要が書かれている。1619年と書かれているのみで、表紙には日付はない、と書いている。

第二段階は、coranto という形式で、連続したシリーズを刊行した時期である。これをイギリス

で発行した中心メンバーは、前述の3名 (Thomas Archer, Nicholas Bourne, Nathaniel Butter) であり、1620年から1625年にかけて多くの coranto を刊行したが、星室庁 (Court of Star Chamber) が外国のニュースの発行も禁止したため一時期衰退したが、1638年に再び Bourne と Butter は外国ニュース印刷の独占権を得た、と説明している。しかし、Smith は「coranto は、われわれが理解しているような定期刊行物ではない」とし、その理由として、ほぼ週刊で刊行されているが、週刊であることを読者に直接知らせていないこと、表紙のタイトルは号によって異なること、をあげている。coranto の果たした役割については次のように書いている。「(当時の) 全世界の記事を提供しようとし、読者に世界の出来事について定期的に包括的な知識を与えようとした点で、coranto は重要である」。

第三段階として、1640年代の政論新聞である diurnal、第四段階として市民革命期の mercury をあげているが、詳細はここでは省略する。

G. A. Cranfield、はこの時期について次のようにまとめている<sup>13)</sup>。

17世紀初頭までに、国内外の事件に対する関心は徐々に高まった。イギリスの対外発展による経済的政治的な関心もあったが、30年戦争 (1618~48) をめぐる宗教的な関心も強いものがあつた。こうした状況においてニュースが価値をもち、一方、伝統的な情報源では不十分な状態になった。

そして、1620年12月2日付の Veseler によるタイトルのない一枚物のニューズシートを紹介し、1621年9月18日までに少なくとも15種以上の coranto が刊行されたが、オランダのものの翻訳であり、たとえ元になったオランダの coranto にイギリスのニュースがあつた場合でも、その部分は注意深くカットされたとしている。プロテスタント寄りの内容のものもあつたが、全体としては、当時の最大の問題であつた戦争のニュースもふくめて内容は中立的であつた。

一方で、イギリス国内のニュースについては、政府が神経質になっており、あえて出版しようとするものはいなかった。そこで、N. B. (Cranf-

13) Anthony Smith, *The Newspaper An International History*, London, Thames and Hudson, 1979, pp. 9-11

14) G. A. Cranfield, *The Press and Society*, London, Longman, 1978, pp. 6-7

ield は、たぶん Nathaniel Butter であるが、Nicolas Bourne である可能性もあると書いている)らによる1622年の coranto 刊行に至ったとしている。形式は最初は号数もなく、タイトルも毎号変わっていたが、やがて号数をいれるようになり、1624年までに“Mercurius Britannicus”という永続的なタイトルを採用した。定期刊行については、確立せず、ニュースがあれば発行していたので、同じ日に2冊刊行されたこともあれば、17日間刊行されない時期もあった。発行部数は Dahl によるとすくなくとも400部と推定しており<sup>15)</sup>、Frank は、1620年代の平均で500部、おもしろいニュースのなかった時期で250部とみている<sup>16)</sup>。Cranfield は、「困難な問題もあったが、newsbook は繁栄した」と書いている。

以上の検討で明らかになったことを最後のまとめとしたい。

1. 15世紀にすでに出現していた、ニュースを掲載したパンフレットをうけて、1620年代にオランダで発行されていた coranto をまねてイギリス人によるはじめての coranto (newsbook) が刊行されたが、星室庁による印刷の特許制と厳しい検閲のもとで、内容は海外のニュースに限られ、発行者も Butter, Bourne, Archer らの少数のグループであった。

2. 定期刊行物として coranto をイギリス近代

新聞の最古のものともみる意見もあるが、標題が一定していないこと、“Weekly Newes”という標題は冠しているものもあるが、確実に週刊で刊行されたのではなく、興味深いニュースがあれば不定期に刊行していたこと、形式は小冊子型であったこと、などから、むしろ16世紀以来の不定期なニューズ・パンフレットの延長のうえに考えられる特徴をもっており、イギリスの研究者のなかには「新聞の先駆」と位置付け、本格的な新聞史は1665年刊行の“Oxford Gazette”(のちの“London Gazette”)あたりと考えている場合もある。

3. 従来のわが国での研究では、定期刊行を推測させる名称からか、1622年の“Weekly News”をイギリスの近代新聞の始まりとみる記述が多くみられたが、以上の検討で明らかになったように、「1621年以降発行された、標題の異なる一群の coranto」をイギリス新聞の先駆として扱うべきであろう。

本稿では、coranto をめぐる諸説の紹介に終わり、coranto の果たした社会的役割、時代的社会的背景や当時の星室庁印刷条例のもとでの検閲制度、特許制を支えた Stationers' Company についてはほとんど触れることができなかった。Bourne や Butter などの coranto 発行者の実像を明確にする作業とともに今後の課題としたい。

15) F. Dahl, *Bibliography of English corantos and periodical newsbooks, 1620-1642*, London, The Bibliographical Society, 1952

16) J. Frank, *The Beginning of English Newspaper, 1620-1660*, Cambridge, Mass., Harvard University Press, 1966



## リスト 1. 1620年～21年に刊行された coranto

- (1) (No title.) Imprinted at Amsterdam by George Veseler, A. D. 1620. The 2 of December (sic). And are to be soulede by Petrus Keerius, dwelling in the Calverstreete, in the uncertaine time.
- (2) Corrant out of Italy, Germany, & c. Imprinted at Amsterdam by George Veseler, A. D. 1620. The 23 of December. And are to be soulede by Petrus Keerius, dwelling in the Calverstreete, in the uncertaine time.
- (3) Corrant out of Italy, Germany, & c. Imprinted at Amsterdam by George Veseler, A. D. 1621. The 21 of Januari. And are to be soulede by Petrus Keerius, dwelling in the Calverstreete, in the uncertaine time.
- (4) Courant out of Italy, Germany, & c. Imprinted at Amsterdam by George Veseler, A. D. 1621. The 31 of March. And are to be soulede by Petrus Keerius, dwelling in the Calverstreete, in the uncertaine time.
- (5) The same title and imprint for 9 April.
- (6) Courant Newes out of Italy, Germany, Bohemia, Poland, & c. Printed at Amsterdam by George Veseler. The 5 of July, 1621.
- (7) The same title and imprint for 9 July.
- (8) Corante; or Newes from Italy, Germanie Hungarie, Spaine and France. 1621. Printed at Amstelredam by Broer Ionson, dwelling on the new side behinde Borchwall, in the silver can, by the Brewery, the 9 of July, 1621.
- (9) Courant newes out of Italy, Germany, Bohemia, Poland. & c. Printed at Amsterdam. By George Veseler. The 15 of July, 1621.
- (10) Corante; or, newes from Italy, Germania, Hungarie, Poland, Bohemia and France, 1621. Printed at Amstelredam by Broer Ionson, Corranter to his Excellencie, the 20 of July. (Note on the margin, in contemporary handwriting, "The second.")
- (11) Newes from the Low Countries. Printed at Altmore [Alkmaar?] by M. H. July 29, 1621.
- (12) Corante; or, newes from Italy, Germany, Hungaria, Polonia, France and Dutchland, 1621. Imprinted by Broyer Iohnson, Corantere to his Excellency, the 2 of August, 1621. (Marked in the same handwriting, "The third.")
- (13) Corante; Newes from Italy, Germany, Hungaria, Polonia, France and Dutchland, 1621. Imprinted at the Hage, by Adrian Clarke, the 10 of August, 1621.
- (14) Newes from the Low Countries; or, a Courant out of Bohemia, Poland, Germanie, & c. Printed at Amsterdam by Ioris Veseler, August 9, anno Dom., 1621.
- (15) The Courant out of Italy and Germany, & c. At Amsterdam. Printed by George Veseler. The 6 of Septembre, 1621.
- (16) The Courant out of Italy and Germany. & c. At Amsterdam. Printed by George Veseler. The 12 of Septembre, 1621.
- (17) Title, imprint and date as in No. 16, but containing different news.
- (18) Title and imprint as in Nos. 16 and 17, but dated 18 Sept.
- (19) Corante; or, newes from Italy, Germany, Hungarie, Spaine and France, 1621. London. Printed for N. B. September the 24, 1621. Out of the Hie Dutch copy printed at Franckford. (The initials are those of Nicholas Bourne.)
- (20) Corante; or weekely newes from Italy, Germany, Hungary, Poland, Bohemia, France and the Low Countreys. Printed at London for N. B., according to the Dutch copy, the 30 of Septemb., 1621.
- (21) Same title and imprint as before, but for 2 Oct., and stated to be "Out of the Hie Dutch Copy." "Corant" is spelt without an "e" at the end. Hungary and Poland become "Hungaria and Polonia."
- (22) As in No. 20, but for 6 Oct.
- (23) As in No. 21, dated 11 Oct.
- (24) As in Nos. 23 and 21, but dated 12 Oct. and stated to be to be Out of the "High Dutch Copy."

## リスト2. 1622年～23年に刊行された coranto

1622

“A Courante of newes from the East India.”

Printed according to the originall copie the eighth Febr., 1622. *Stilo Novo*. (Title page missing. Quarto 6 pp.)

The 23 of May. Weekly Newes from Italy, Germanie, Hungaria, Bohemia, the Palatinate, France and the Low Countries. Translated out of the Low Dutch Copie. London.

Printed by I. D. for Nicholas Bourne and Thomas Archer, and are to be sold at their shops at the Exahange, and in Pope's Head Palace. 1622.

The 30 of May. (Remainder of title and imprint as before.)

The 18 of Iune. Weekly Newes from Italy, Germanie, Hungaria, Bohemia, the Palatinate and the Low Countries; with a strange accident hapning about and in the City of Zitta in Lusatia.

Translated out of the High Dutch Copie. London. Printed by I. D. for Nathaniel Newbery and William Sheffard, and are to be sold in Pope's Head Alley, 1622

The certaine newes of this present weeke Brought by sundry posts from severall places, but chiefly the progresse and arrivall of Count Mansfield with the Duke of Brunswick into Champeney in France, & c. . . .

Out of the best informations of letters and other. this second of August. 1622. London. Printed by I. H. for Nathaniel Butter, and are to be sold at his shop at the signe of the Pide Bull at St. Austins Gate. 1622

On 13 and 23 August, 1622. two similar tracts were issued by Butter, both of which are in private hands.

The 2 of September. Two great Battailes very lately fought, & c. (Extremely lengthy title describing contents.)

London, Printed for Nicholas Bourne and Thomas Archer.

The Ninth of September 1622. Count Mansfield's Proceedings since the last Bataille, &c. (Extremely lengthy title.) Printed for Bourne and Archer as before.

The 25 of September. Newes from most parts

of Christendom, & c. (Lengthy title.) London. Printed for Nathaniel Butter and William Sheffard, 1622.

The 27 of September. A Relation of letters and other advertisements of news, & c. (Lengthy title.)

London. Printed for Nathaniel Butter and Thomas Archer, 1622.

The 4 of Octob. 1622. A True relation of the affaires of Europe, & c. (Lengthy title.) London. Printed for Nathaniel Butter and Nicholas Bourne, 1622.

October 15. 1622. No. 2. A Continuation of the affaires of the Low Countries, & c. (Lengthy title.)

London. Printed for for Nathaniel Butter and Barth. Downes, 1622. (*Note*—This was a continuation of the coranto dated “4 of Octob.”)

October 15. 1622. (In margin “Nouo. 1.”) A Relation of the late Occurrents which have happened in Christendom. . . .

London. Printed by B. A. for Nathaniel Butter and Nicholas Bourne, 1622.

October 30, 1622. No. 4. A Continuation of the Weekly Newes from Bohemia, Austria. . . .

London. Printed for Nathaniel Butter and Barth. Downes. 1622.

The 4 of November. The Peace of France. . . . London. Printed by I. D. for Nathaniel Newbery, and are to be sold at his shop under St. Peters Church in Cornehill, and in Popeshead alley at the Starre. 1622.

November 5, 1622. Numb. 5. A contiuation of the Newes of this present weeke. . . .

London. Printed for Bartholomew Downes and Thomas Archer. 1622.

Novem. 7. 1622. Numb. 6. A Coranto relating divers particulars concerning the newes out of Italy. . . .

Printed for Nathaniel Butter, Nicholas Bourne and William Sheffard. 1622.

Novemb. 1622. Numb. 7. A Continuation of the newes of this present weeke. . . . (Imprint as in previous numbers.)

Novemb. 21. 1622. Numb. 8. The Continuation of the former Newes. . . .

Printed for Nathaniel Butter, Bartholomew Downes and Thomas Archer. 1622.

Novemb. 28. Numb. 9. Brief abstracts out of divers letters of trust. . . .

Printed by B. A. for Nathaniel Butter, Nicholas Bourne and William Sheffard. 1622.

1623

May 12. Numb. 31. The Newes of this present Weeke. . . . (Printed for Butter, Bourne and Sheffard.)

May 17. Numb. 32. The last newes. . . . (Printed for Butter and Sheffard.)

May 26. 1623. Numb. 33. A Relation of Count Mansfield's last proceedings. . . . (Printed for Butter, Bourne and Sheffard.)

May 30. Number 34. The last Newes. . . . (Printed for Butter and Archer.)

With similar variations as to the titles and

the publishers, the following numbers are in the Burney Collection:—"June 16, Numb. 36"; "July 4, Numb. 38"; "July 10, 1623. Numb. 39"; "July 18, Numb. 40"; "July 22, Numb. 41"; "July 29, Numb. 42"; "August 21, Numb. 44"; "Aug. 27, Numb. 45"; "August 29, Number 46. Ital. Gazet. *Nu. prio.*"; September 5, Numb. 46"; "September 12, Numb. 47"; "September 17, Numb. 48"; "September 24, Number 49"; and "October 2, Number 50."

On Oct. 11 this periodical recommences with "Number 1." The second number appearing on Oct. 28. and the third on Nov. 11. The last number of this series in the collection is No. 30 for 17 May. 1624, and the titles and publishers continue to vary throughout.